



出場はいつも夜にやってくる



2月22日(日本時間23日)に閉幕したミラノ・コルティナ冬季オリンピックは、イタリア北部を舞台に17日間にわたり開催されました。今大会は、都市(ミラノ)と山岳リゾート(コルティナ)を組み合わせ、会場がイタリア北部に点在する分散開催により既存施設の最大活用(約90%)を行ったり、パリ2024大会からの備品再利用など、徹底した持続可能性(サステナビリティ)が大きなテーマとなりました。

日本選手団は、**金メダル5個を含む史上最多24個**のメダルを獲得する歴史的な躍進を見せました。みんなはどの競技が印象に残っていますか?みんなとあまり年の変わらない10代の選手の活躍もたくさんありました。そんな中、メダル獲得にはいたらなかったカーリングの選手たちの裏話に感動しました。カーリングは数ミリ単位の技の競い合い、複雑な戦術。知れば知るほど面白くなる競技です。日本代表のフォルティウスのチーム力にも感動しました。一投一投に互いを尊重し合う声掛け、常にポジティブな言動に勝っても負けても感動するシーンがたくさんありました。そんな中、すでに敗退が決定している時に以下の新聞記事を目にしました。

出番はいつも、夜にやってくる。カーリング女子フォルティウスのリザーブ(控え)小林未奈。

すべての試合が終わって観客もいなくなった後、大切な仕事がリングで静かに始まる。1次リーグ敗退が決まってもそれは変わらない。各チームのリザーブやコーチが残り、翌日に使うストーン(石)の曲がり方、滑り具合を一つ一つ記録していく。石や氷の特徴をつかむには、投球の高い再現性が欠かせない。「どっしりと安定したフォームで、毎回同じように投げることを心がけています」チーム最年少の23歳は五輪の氷でも毎夜、淡々と同じ動作を繰り返す。~中略~

夜のリングで重ねる準備も、急な出場に備えた覚悟も、小林は未来に続いていくと信じている。

このような陰で支える人が今回の大会でもたくさんいたのだろうと改めて感動しました。

他にもフィギュアスケートのチーム力、仲の良さにも感動しました。全力で応援し、選手のために涙するシーンもたくさんありました。10代の選手が躍動した男女スノーボードの強さにも驚き

ました。こういう選手たちも競技を始めたきっかけは面白そうなど、小さなきっかけです。

どうせ無理だとあきらめる前にやった方がいいなと思うことに挑戦してみ

てください。大きなことを成し遂げるには最初の一步を踏み出すことが大切なのです。

さあ次はミラノ・コルティナ2026**パラリンピック**です。2026年3月6日(金)に開幕します。さらにたくさんの感動を与えてくれると信じています。日本選手、頑張り!

